

講習の名称	西洋の近代と東洋の近代	講習番号	E
開催日	平成26年8月22日(金)	定員	80名
主な受講対象者	小学校教諭、中学校社会教諭、高等学校地理歴史・公民教諭		
担当講師	伊藤 栄晃(外部講師)		
講習の概要	明治以来わが国は「脱亜入欧」のスローガンの下、アジアを離脱し近代欧米に学ぶことを「近代化」と呼び、国民の大目標としてきました。歴史教育もまたこの線に沿って組織されました。しかし今日アジアの台頭と欧米の相対的衰退、またアジア近隣諸国との間の緊張の高まりなどにより、この見方は大いに揺らいでいます。本講習では、世界の歴史学の最新の成果を紹介しながら、今後の我が国の進路を考え、それぞれの授業づくりに寄与したいと思います。		
講習計画	09:30～10:30 (60分)	問題提起「脱亜入欧」からアジアの日本へ 概要：社会科教科書の記述を見ると、近年歴史教育の目標に変化が見られます。それは近代化＝欧米化を世界史的な流れと見て、これを学ぶという目標から、アジアにおける日本の位置づけを理解する目標への変化です。その含意を考えます。	
	10:30～10:40	休憩	
	10:40～11:40 (60分)	大塚久雄の思想と戦後歴史学 概要：戦後民主化・近代化運動を、丸山真男とともに進めた大塚久雄の思想と戦後歴史学への影響を講じます。欧米を日本の目指すべき目標とした歴史観の成果と問題について討論します。	
	11:40～11:50	休憩	
	11:50～12:50 (60分)	欧米歴史学の動き：欧米中心主義の盛衰 概要：欧米を世界史の中心に位置づけた諸学派の盛衰を扱います。啓蒙思想の「文化史」、「歴史主義」、マルクス主義、そして「テイクオフ理論」などの盛衰を講じ、その意味を討論し合います。	
	12:50～13:40	昼食休憩	
	13:40～14:40 (60分)	ウオーラーステイン「世界システム」論の挑戦 概要：1970年代に提起された「世界システム」論は、「従属理論」の立場からの、欧米中心史観への本格的異議申し立てでした。その内容を講じ、問題点を討論し合います。	
	14:40～14:50	休憩	
	14:50～15:50 (60分)	ジョーンズ「ヨーロッパの奇跡」論の意義と限界 概要：家族史や疫病史などの成果を踏まえ、ジョーンズは、ヨーロッパ型の発展とは異なるアジア型の発展があり得たことを論じました。その内容を紹介し、問題点を討論し合います	
	15:50～16:00	休憩	
	16:00～16:20 (20分)	今日の歴史学におけるアジアと欧米、そして日本 概要：歴史学は、国際政治経済の動きを反映して、変遷を重ねてきました。本日の講義内容を踏まえ、世界や日本の歴史を生徒・学生に歴史をどう伝えるか、討論します。	
	16:20～17:00 (40分)	試験 筆記試験を行います。配布資料と講義・討論とを踏まえ、設問に答えていただきます。	
	17:00～17:10	事後評価アンケート	
成績評価の観点	各テーマについて①正しく理解し、②自身の見解を持ち、③授業でそれをどのように反映するかが明確かどうかを、評価の重要ポイントとします。試験では、設問はそれらについて問います。		
備考	討論での積極的な発言や、異なる見解への尊重の姿勢も、求めます。		